

鈴鹿8耐参戦記

去る8月1日から5日までの5日間、鈴鹿サーキットで行なわれた「世界耐久選手権」の鈴鹿8時間耐久ロードレースに出場してこられた。このレースはレースを始めてからずっと夢に見てきたもので、13年越しの夢をやっと果たす事ができました。

なんと決勝に駒を進める事ができたので良かったのですが、予選の時最後の最後まで通過するかどうかかわらなかつたのでかなりドキドキでした。

今年から予選方式が変わって、従来はライダー2人の内どちらかタイムを出せば良かったのですが、今年からは2人又は3人の平均タイムとなり1人が早くてももう片方が遅ければあえなく撤収となってしまいます。我がチームは第2ライダー(チームオーナー)が元々第3ライダーを起用して、平均タイムを上げようという作戦に出ました。第3ライダーは3年連続8耐に出場しているベテランです。

金曜日予選当日。それぞれ午前、午後30分のタイムアタックを行なう事ができました。当日の予想最高気温は35℃。第1ライダーの僕は気温の低い午前中にタイムを出さなければと気合を入れてコースに出ていきました。でも、一生懸命走っているのに抜かれるばかり。やはり世界最高峰のレース。WGP500クラスに出場しているロツシとか岡田とか有名ライダーが矢のように抜いていきます。それでも自己ベストの2:28.5を出し、Bグループの35番手、Sグループ3番手につければOKです。結果は第2ライダー、結果は第3ライダー、結果は第3番手、クラス6番手。このままだと確実に予選落ち。後は第3ライダーに期待をかけるしかない。ここでこの男がやってくれた！自己ベストを1秒以上縮めて2:28.0。これでなんとか予選通過できるはず！正式結果は午後9時半にでて66位。ピリツケツケだが堂々の予選通過である。結構ヒヤヒヤもんである。予選落ちしたら応援してくれたみんなに合わす顔がなかった。よかった、よかった。と気もすっきり緩み、その夜僕は一足お先に宴会体制(メカニックの人達は日曜に向けマシン整備しているのだが...)。

明日の決勝に備えて睡眠をとりました。いよいよ決勝当日！朝からいい天気だけれどもそんなに暑くなかった。まずは9時からフリー走行。コースインして驚いたのは、観客の多さでした。スタンドにはびっぴり人が埋まっていた、なかなかいい気分。3周周回して一度PITに戻り交代。第2ライダーが3周周回。再び僕がコースに戻った時、やっつしましました。O.U.T. ツブデグナーコーナーでまさかの転倒!!ダメージは少なかつたけれど、でもかなり壊れました。メカニックたちの懸命な努力でなんと11時のコースインには間に合いました。選手紹介も終わり、2周のウォームアップ。ここでフロントブレーキにトラブルが発生！走れないトラブルではないので、しばらくはリットに戻り、とにかくスタートをすする事にし、いよいよスタート。コースを横切りバイクにまたがりエンジン始動！なかなかいいスタートはしたのだが、すぐにPITINしななければならぬ。最後尾につけてたら早くも何台か転倒してしまいました。無事にPITINし応急処置、すぐさま再スタート。ここからは淡々と走っていききました。50分程走り交代。この時点で60位くらい。気温がそんなに高くなかったのと風が強かったので疲れは少なかつた。すぐに僕の走る時間になり二回目の走行。PIT作業も手作業にしては順調にいきタイムロスは無し。また僕は

淡々と走り続けました。ワークス連中が遅いのはどけ！とばかりに足を出してきても淡々と走り続けました。順調にレースを進んで行き、6時間を経過した頃には33番手、クラス2位まで上がっていました。ラスト45分、最後の交代の時にとうとうトラブル発生。応急処置したブレーキがまったく効かなくなつてしまひ慌てて修理したが5分程かかってしまい、コースインしたときにはクラス4位まで順位を下げてしまつた。当日は曇りの為、すぐ暗くなりコースは見えないので、後からはすごい勢いでワークスさん達のライントが近づいてくるのを感じて大変でした。結果、たいして順位は回復する事なくチェッカー。走末!!さすがに最後は感動しました。この耐久に向け大変だった事が次々と思ひ出されて少し『うるっ』とききました。PITに戻るとチームクルー達からビールの洗杯をうけ(この部分しかTVに僕は映らなかつたのだが)、その後ビールかけの戦争、みんなずぶ濡れになった頃、盛大な花火が上がりました。長い長い8時間が終わりました。今でもこの花火の瞬間は鮮明に覚えています。13年越しの夢はこれで終わりではなく、これが始まりじゃないかと思ひ始めてます。(K、K)

予選通過	66台
決勝出走	70台
最終結果	83台
総合	36位
クラス別	4位

生コンプラント

(1)生コンプラントの特徴
生コンプラントは、施設全体の構成を機能から見ると、製造本体として「骨材受入貯蔵設備」「セメント受入貯蔵設備」「パッチャープラント設備」「廃水処理設備」から成り立ち、又、大型車の動線として供給のミキサ車の「作業スペース、待機スペース」が必要であり、骨材やセメントの「搬入スペース」が必要となるものである。

(2)補償上の問題点
生コンプラントは生コンクリートの生産とこれを如何に効率よく建設現場等へ搬送するかにより基本的な経営効率が確保される事になる。更に、生コンクリートの特徴である

- ①貯蔵できない
- ②運搬が限定される
- ③半製品である

という事は、コンクリートは正しくは生き物であり、種々の条件をクリアしなければ良いコンクリートの製造はできないという事を前提にして、標準化を行い、品質管理方法を確立し、品質の確かな生コンクリートを製造しなければならぬ。

【残内移転の場合】
前述したように、製造装置である本体機械及び材料(セメント、砂、砕石等)の貯蔵設備のスペース確保。ミキサ車等の動線及び連続出荷がスムーズに行える車両待機スペースの確保。

【構外移転の場合】
・残内移転が不可能な場合には、通常構外への移転を考へるものであるが、生コンクリートは製造されてから1時間以内現場へ供給されなければならない。同業者組合において細かく地域割(テリトリ)が設定されている。

水に纏わる四方山話 act1

古い話ですが「水」といふ、大学ではじめて「水理学」の授業を受けた事を思い出します。水理学とは「水五則」や「水五徳」という話を聞いたこと。鮮明に憶えています。勿論誰しもが想像出来るような内容であり、聞けばなるほどというものです。不思議とそれ以降「水五則」という言葉とは疎遠であったのですが、最近久しぶりに出合いました。私達の会社で、ある土地区画整理事業の総合コンサルタントを担当し、その竣工式の事で、仕事を担当したその地方でも屈指のゼネコンの社長が、祝辞の中で「土の五徳」ということを述べられ、土木、なかなか大地の特性にふれつつ、この事業の有用性に話を移し、まことに座持の悪い話でありました。続いて指名を受けたのが当社の社長であり、当然意図妙「水五則」でもって先程の話をつなぎつつ

○現所在地と同一地域内(テリトリ)に移転先が得られるか。
又、対象となる生コンプラントがJIS認定工場(大部分がJIS認定工場)である場合は、JIS規格を再取得するまでの期間に大幅な顧客離れ(官庁及びこれに準ずる工事)が予想されるものである。

以上が生コンプラントの補償方法を検討する上で大きな問題点であるが、この他にも都市計画法でいうところの「第一種特定工作物」であるから建設可能な地域が限定される事、更に、施設そのものがどちらかといえば嫌悪されがちである為、具体的な代替地検索の難航、補償額に占める割合が高い生産施設(機械等)の移転費(減耗控除を含む)の取扱い等、多岐にわたる課題が山積みしている。(S、D)

「水五則」

- 一 自ら活動して他を動かさぬは水なり
- 一 常に己の進路を求め止まらざるは水なり
- 一 障害にあい激しその勢力を百倍し得るは水なり
- 一 自ら深くして他の汚れを洗いせるの量あるは水なり
- 一 洋々として大洋をけし発しては蒸気となり雲となり雨となり雪と変じと化し凝ってはたる鏡となりも失はざるは水なり

(Y、W)

後記集

先だって、私どもで補償業務のお手伝いをしていました起業者の方から、契約する事が出来た旨のご連絡をいただきました。その物件は今回が不調ならば取用へ移行するところまで来ていたようですが、何とかなり買収で決着できたようです。ここへ至るまでの用地交渉をご担当された方の尽力は並大抵ではなかつたと思ひます。このようなご連絡を頂く時は難しい補償物件か、用地交渉が難航した物件が多く、このような業務に携わる事が私どもを育てる事になると信じています。「無事に契約が出来ました」の一言が補償コンサルタントとしての仕事冥利に尽きるのではないと思ひます。(H、K)

